令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　特別養護老人ホーム　京都ひまわり園　事業計画

事　業　概　要				
定員 50 名　利用者平均年齢　　85.9 歳、利用者平均介護度　4.12				
計　画　趣　旨				
各専門職員と介護職員が一体となってご利用者の ADL 向上を目指します。ICT・IOT を活用し、会議やご利用者のニーズに対応したサービスやイベント等を計画していきます。				
基本方針	事　業　計　画(Plan)			
	項目	内容（数値・実施時期等）		実施責任者
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	研修やスタッフ会議等に館内 Wi-Fi を活用する。利用者ニーズに合わせた ICT・IOT の活用を検討・実施する。	機械化に関する会議 年３回	介護課係長 笹井
	危機管理体制の強化	非常災害時に備え、備品の在庫確認と管理・使用方法の確認を行う。現場に応じた感染症対策の見直しを実施する。 災害・感染症発生時の事業継続計画を作成する。	避難訓練・各種委員会に合わせ 年１回	相談課 佐藤 看護課主任 八鍬 介護課係長 笹井
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	地域のニーズに合わせた内容での法人自主勉強会を開催する。地域交流の場として法人自主勉強会を活用する。	通年	介護課係長 笹井
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	Wi-Fi 環境を利用し、オンラインでのリハビリテーションの指導や実施を行う。 映像・音声を使用した行事等の企画を行う。	オンライン リハビリ 月１回 行事企画 年４回	言語聴覚士 藤田 栄養課 西尾
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	施設内で認知症事例検討会を実施する。また実施したケアの評価を行い、ケアの質、介護技術の向上を目指す。	事例検討会 年３回	介護課主任 西野
4　人材の質	内部研修の充実	外国人技能実習生・新規採用職員の指導・教育の継続を行う。看取りや嚥下、リハビリなど専門的な知識を習得し、専門職との連携、チーム力の強化に努める。	理解度チェック 年４回	介護課主任 木本 介護課副主任 玉井
	資格取得の推進	オンラインでの外部研修の参加を積極的に行う。資格取得だけではなく、持っている資格を生かせるように取り組む。	研修報告会 年２回	介護課係長 笹井

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　短期入所生活介護　京都ひまわり園　事業計画

事　業　概　要				
定員８名　利用者平均年齢　　82.7 歳、利用者平均介護度　3.00				
計　画　趣　旨				
各専門職員と介護職員が一体となってご利用者の ADL 向上を目指します。ICT・IOT を活用し、会議やご利用者のニーズに対応したサービスやイベント等を計画していきます。				
基本方針	**事　業　計　画(Plan)**			
	項目	**内容（数値・実施時期等）**		**実施責任者**
１　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	研修やスタッフ会議等に館内 Wi-Fi を活用する。利用者ニーズに合わせた ICT・IOT の活用を検討・実施する。	機械化に関する会議 年３回	介護課係長 笹井
	危機管理体制の強化	非常災害時に備え、備品の在庫確認と管理・使用方法の確認を行う。 現場に応じた感染症対策の見直しを実施する。	避難訓練・各種委員会に合わせ 年１回	相談課 佐藤 看護課主任 八鍬
２　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	地域のニーズに合わせた内容での法人自主勉強会を開催する。地域交流の場として法人自主勉強会を活用する。	通年	介護課係長 笹井
３　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	Wi-Fi 環境を利用し、オンラインでのリハビリテーションの指導や実施を行う。 映像・音声を使用した行事等の企画を行う。	オンラインリハビリ 月１回 行事企画 年４回	言語聴覚士 藤田 栄養課 西尾
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	施設内で認知症事例検討会を実施する。また実施したケアの評価を行い、ケアの質、介護技術の向上を目指す。	事例検討会 年３回	介護課主任 西野
４　人材の質	内部研修の充実	外国人技能実習生・新規採用職員の指導・教育の継続を行う。看取りや嚥下、リハビリなど専門的な知識を習得し、専門職との連携、チーム力の強化に努める。	理解度チェック 年４回	介護課主任 木本 介護課副主任 玉井
	資格取得の推進	オンラインでの外部研修の参加を積極的に行う。資格取得だけではなく、持っている資格を生かせるように取り組む。	研修報告会 年２回	介護課係長 笹井

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　京都ひまわり園デイサービス　事業計画

事　業　概　要				
月曜日～金曜日　9:30～12:30　定員 10 名　13:30～16:30　定員 10 名				
計　画　趣　旨				
安全に安心してサービスが利用できるデイサービスを目指し、サービスの質向上に努める。				
基本方針	事　業　計　画(Plan)			
	項目	内容（数値・実施時期等）		実施責任者
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	マシーントレーニングソフトを活用し、ご利用者様の身体機能の維持、向上と職員間と他事業所のケアマネージャーとの情報共有を行う。	100%	所長 林秀典
	危機管理体制の強化	事業所での避難訓練を共同で実施し防災意識を高める。新型コロナ感染防止に向け、職員間での情報共有を密にし感染防止に向けた取り組みを行う。	避難訓練 2 回/年 通年	所長 林秀典
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	地域のケアマネージャーと空き情報等の情報共有を行い、見学、体験利用を伝え地域高齢者の社会交流を促す。	100%	所長 林秀典
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	送迎車に乗る前にご利用者様の検温を行い発熱が認められる場合は利用をお断りするマシーンや備品等は一人使用ごとに消毒を行う。換気と接触物、接触場所等の消毒を行い、安全、安心できるサービス提供。	100%	所長 林秀典
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	ご利用者の身体機能・認知機能の情報をスタッフ間で共有し、ご利用者様のレベルにあったトレーニングと学習課題の検討を行いサービスの提供を行う。	100%	作業療法士 中﨑幸子
4　人材の質	内部研修の充実	ご利用者に多い疾患や運動時のリスク等について部署内で勉強会を行う。	1 回/月	作業療法士 中﨑幸子
	資格取得の推進	認知症予防に関する知識と技術向上のため痴呆介護実務者研修等の部署内での勉強を行う。	4 回/年	所長 林秀典

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　ホームヘルパーステーション京都ひまわり園　事業計画

事　業　概　要				
利用者数　29　名　　利用者平均年齢　83　歳　　利用者平均介護度　2.2				
計　画　趣　旨				
新型コロナ禍の中ヘルパーの直行直帰、稼働の減少が見られる。その為伝達事項の見落としが出てきている。ITC を活用することで敏速に職員と情報を共有し利用者の変化を認識しサービスに入る事によって ADL の維持、向上に努める。				
基本方針	事　業　計　画(Plan)			
	項目	内容（数値・実施時期等）		実施責任者
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	ICT を活用し、日誌などの事務効率化を図る。シフトや伝達事項をメールで一斉送信しペーパー・時間の削減、全職員と情報の共有を図る	常時	介護課 近藤由美子
	危機管理体制の強化	常に何か起こるのではないか、情報を収集、準備し職員で共有する。個々の持つリスクを介護計画に反映し利用者１人ひとりに対応したサービスを行う	常時	介護課 近藤由美子
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	住み慣れた場所で出来るだけ長く生活をしたいというニーズに対応するために柔軟な受け入れを行う	スポットサービス	介護課 近藤由美子
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	ヘルパーを含め全ての人が保菌状態と考え訪問時にウイルスを持ちこまない、受け取らないように利用者の状態に合わせた感染対策を徹底する。	常時	介護課 近藤由美子
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	認知症を病気だと正しく見定め、利用者の心に寄り添い利用者が関わる。認知症の進行を予防出来るように口腔内の確認やケアを行う。	5 名	介護課 近藤由美子
4　人材の質	内部研修の充実	利用者に気持ち良くサービスを受けてもらうために、言葉のかけ方、話し方を見直し学び接遇の向上を図る	月１回 自主勉強会を行う	介護課 近藤由美子
	資格取得の推進	全ヘルパーが介護福祉士を目指す。 介護福祉士模擬試験の実施。	年１回	介護課 近藤由美子

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　グループホーム　京都ひまわり園　事業計画

事　業　概　要				
定員 18 名。　利用者平均年齢　87.5 歳。　利用者平均介護度　3.0。				
計　画　趣　旨				
利用者が日々楽しみや気持ちの張りを持ち、より豊かに心地よく過ごせる様に、職員が同じ方向を目指してチームとして大きな力を発揮できるように努めます。				
基本方針	**事　業　計　画(Plan)**			
	項目	**内容（数値・実施時期等）**		**実施責任者**
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	ほのぼのシステムの活用と見守りシステムの研究、検討を行う。	通年	小林　裕美子 倉田　真人
	危機管理体制の強化	地震想定の避難訓練を実施する。 感染対策委員会と連携を図り、新型コロナウイルス感染症について情報の共有と更新を行う。	通年	熊谷　昌幸
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	ベルマーク収集を継続し、小学校への寄付を行う。	年一回	小林　裕美子
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	太陽に当たること、外に出ること、人と人とのつながりを持つことが新しい形でできるように、ニーズ把握とサービスの工夫を行う。	三ヶ月毎に目標設定し振り返りを行う。	熊谷　昌幸
	利用者への認知症ケアの充実、ADLの向上を目指す	家事活動、趣味活動を通し利用者が役割を持ち楽しみながら活躍できる場を作る。	六ヶ月毎に見直し、修正を行う。	政次　一輝
4　人材の質	内部研修の充実	事業所内の年間研修計画を作成し、定期的に学びを深める場を作る。	通年	小林　裕美子
	資格取得の推進	事業所の特性から活用できる資格等の情報収集や周知を行う。また、取得した資格を活かせる環境作りを行う。	通年	倉田　真人

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　ケアハウス　ポポロ２１　事業計画

事　業　概　要				
入居者 50 名　平均年齢 84 歳　平均介護度 1.8＊他支援 7 名　自立 3 名（内 1 名自立支援利用）				
計　画　趣　旨				
入居者が安心してできる限り生活が続けられよう個々のニーズの把握や体調管理を支援する。 また、老人福祉法の施設として１人１人の強みを生かし、自立した生活が送れる支援を目指す。				
基本方針	**事　業　計　画(Plan)**			
	項目	**内容（数値・実施時期等）**		**実施責任者**
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	施設や施設外の会議等でオンライン会議を利用し効率化を図る。 ほのぼのをさらに活用し、入居者の状態の把握と職員の連携を強化する。	1 日 1 回 4/1～	副施設長 小山　文代
	危機管理体制の強化	入居者の状態をチエックして体調管理をする。体調不良者の対応を明確にする。 個々のリスクに対してできる限り回避できるように支援を検討する。	1 日 1 回 職員会議で月に 1 回	副施設長 小山　文代
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	地域包括や市と連携を取り、介護度が軽度な方の相談を迅速に受ける。 ベルマークの収集を継続して行い、八幡小学校に送る。	適宜 月に 1 回	副施設長 小山　文代
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	外出ができないストレスを解消できるように季節感や雰囲気が楽しめる行事や食事を企画をして提供する。入居者の希望も取り入れ年間の計画を立てる。	4 月に 年間計画 作成 毎月実施	副施設長 小山　文代 栄養課 若林　耕祐
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	作業療法士他からアドバイスをもらい、体を動かしたり、考えるゲームや体操等を行事・クラブ活動に組み入れる。個々の能力に応じた作品作りを年間通して行い活性化につなげる。	4 月に 年間計画 作成 毎月実施	副施設長 小山　文代
4　人材の質	内部研修の充実	入居者をより深く理解し、適切な対応や支援が出来るようにテーマを決めて自主勉強会を行う。	2 ヶ月に 1 回 職員会議で行う	副主任 目黒　隆之
	資格取得の推進	スキルアップができる資格取得を目指す。	1 年間を通して行う	副施設長 小山　文代

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　特別養護老人ホーム　有智の郷　事業計画

事　業　概　要				
定員 70 名　利用者平均年齢 87 歳、利用者平均介護度 3.8				
計　画　趣　旨				
新型コロナウイルス感染症をはじめとする感染症や大規模災害への対応力の強化を図るとともに、先進技術の導入に向けた基盤づくりを進める。 **利用者のニーズを把握し、専門的な技術と知識を活かしたサービスを提供する。**				
基本方針	**事　業　計　画(Plan)**			
	項目	**内容（数値・実施時期等）**		**実施責任者**
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	人員配置の見直しや業務の見直しを行い必要な見守り機器、移乗機器、入浴機器等の機械化を検討していく。	通年	介護課主任 佐藤あゆみ
	危機管理体制の強化	指定感染症に対するマニュアルの策定と勉強会及びシミュレーションの実施 避難訓練に加え、大規模震災・水害に対するシミュレーションを実施する。また、災害・感染症発生時の事業継続計画を作成する。	年 4 回 年 3 回	医務課主任 栗幸子 介護課副主任 林孝明
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	SNS やホームページなどを活用し、施設での取り組みを知ってもらう機会を作る。地域との結びつきを構築することで地域住民との関りを持てるようにする。	通年	介護課副主任 林孝明
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	利用者個々のニーズを把握し、月間の予定表を作成し、サービス提供の計画を立てる。 見取りケアの勉強会(年 3 回)を行い、知識の向上を行う。 尿路感染症、誤嚥性肺炎予防を徹底し入院リスクを減らす。特養入居者稼働率平均 95%以上を維持する。	通年	相談課主任 庄源明子 医務課主任 栗幸子
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	利用者に対しての生活リハビリを立案し多職種と連携し見直すことで ADL の維持･向上に繋げていく。	通年	介護課ﾕﾆｯﾄﾘｰﾀﾞｰ 東入来翼
4　人材の質	内部研修の充実	施設内・法人内研修の内容の見直しと、実施方法の検討(オンライン化･動画配信等)を行い参加しやすい体制の構築	年 3 回	介護課主任 佐藤あゆみ
	資格取得の推進	外部研修への積極的な参加を促し、認知症の専門職としてのスキルの向上(認知症基礎・実践者・リーダー研修への参加)	年 2 回	介護課主任 佐藤あゆみ

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　短期入所生活介護有智の郷　　事業計画

事　業　概　要				
定員 10 名　利用者平均年齢 86 歳、利用者平均介護度 2.5				
計　画　趣　旨				
新型コロナウイル感染症をはじめとする感染症や大規模火災への対応力の強化を図るとともに、先進技術の導入に向けた基盤づくりを進める。 **利用者のニーズを把握し、専門的な技術と知識を活かしたサービスを提供する。**				
基本方針	**事　業　計　画(Plan)**			
	項目	**内容（数値・実施時期等）**		**実施責任者**
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	人員配置の見直しや業務の見直しを行い必要な見守り機器、移乗機器、入浴機器等の機械化を検討していく。	通年	介護課主任 佐藤あゆみ
	危機管理体制の強化	指定感染症に対するマニュアルの策定とシミュレーションの実施 避難訓練に加え、大規模震災・水害に対するシミュレーションの実施	年 4 回 年 4 回	医務課主任 栗幸子 介護課副主任 林孝明
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	SNS やホームページなどを活用し、施設での取り組みを知ってもらう機会を作る。地域との結びつきを構築することで地域住民との関りを持てるようにする。	通年	介護課副主任 林孝明
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	月間予定表を作成し、余暇活動の計画を行い実施、評価を行う。 新規利用者、リピーターを増やし、稼働率 50%を目標とする。	通年	相談課主任 庄源明子
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	利用者個々の認知度、ADL に合わせた対応表を作成し、ケアの実施を行う。具体的な生活リハビリ等を計画し実施していく。	通年	介護課副主任 林孝明
4　人材の質	内部研修の充実	施設内・法人内研修の内容の見直しと、実施方法の検討(オンライン化・動画配信等)を行い参加しやすい体制の構築	月 1 回	介護課主任 佐藤あゆみ
	資格取得の推進	外部研修への積極的な参加を促し、認知症の専門職としてのスキルの向上(認知症基礎・実践者・リーダー研修への参加)	年 2 回	介護課主任 佐藤あゆみ

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　有智の郷デイサービスセンター　　事業計画

事　業　概　要				
定員 30 名／日　利用者平均年齢 89 歳　利用者平均介護度 2				
計　画　趣　旨				
地域への貢献活動を行い、必要とされ、選ばれる事業所となるため、住民との協働・連携を図る。利用者の求めるサービスを的確に把握し実施していく。				
基本方針	**事　業　計　画(Plan)**			
	項目	**内容（数値・実施時期等）**		**実施責任者**
1　経営の質	危機管理体制の強化	災害時の地域との連携、協働にむけて事業所として、日ごろから風通しのよい関係を構築（下記事業等）非常時に迅速な対応ができる。	年１回 活動報告	管理者 出口　由起枝
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	膝痛教室、転倒予防教室、体力測定の開催通所介護の内容を紹介、新規利用拡大につなげる。地域の活動に参加や有智の郷祭での教室開催などを通じ、地域貢献を行う。	年２回程度	管理者 出口　由起枝 PT 遠藤　佳幸
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	感染症対策を徹底し、安心して利用ができ、営業中止等が最小限に抑えられる。 利用回数の増回など、慣れたところで、なじみの職員や利用者との交流が図れ、ショートステイや入所時にも不安なく利用ができるよう支援する。	営業日	管理者 出口　由起枝
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	小集団での機能訓練を実施して、歩行の安定性や立ち上がりなど、自宅内 ADL 向上や生活課題のプログラムを提供する。 利用者の状態に応じ、歩行訓練やマッサージ、道具を使った運動など利用者に応じた多様なプログラムを実施する。 セラピストによる機能訓練のほか様々なリハビリやアクティビティを工夫・提供して自宅内 ADL につなげていく。	営業日	PT 遠藤　佳幸
4　人材の質	内部研修の充実	個別のニーズの把握とできることを常に更新していけるよう共通認識をもった支援のため、ケースカンファレンスを定期的に実施する。	月１回	管理者 出口　由起枝

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　有智の郷　ケアマネジメントセンター　　事業計画

事　業　概　要				
利用者の人格を尊重した介護保険サービスの提供（135 件／月）と評価を行う。				
計　画　趣　旨				
特定事業所加算Ⅱの算定要件を維持し、自立支援に即したケアマネジメントを提供する。また、関係機関と協働して住民の予防行動の向上を図り、地域課題の共有や優先順位に応じた支援をとおして在宅生活の限界点が高まるよう、地域包括支援センターと一体的な体制を構築する。				
基本方針	**事　業　計　画(Plan)**			
	項目	**内容（数値・実施時期等）**		**実施責任者**
1　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	ケアマネジメントソフト“ほのぼの”の入力支援機能を有効活用し、業務の効率化を図る。また、クラウド型“ほのぼの”についてコストパフォーマンスを検証する。	通年	管理者 北野太朗
	危機管理体制の強化	①災害発生時を想定した連絡網を整備する。②相談支援場面における接遇を確認するとともに、苦情が発生しにくい説明方法などについて事業所内で統一化を図る。	①通年 ②２回／年	管理者 ①北野太朗 ②宮川久美子
2　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	①令和３年度開始のオレンジカフェ（認知症カフェ）や認知症本人ミーティングの企画を八幡市、地域包括支援センターと連携し、企画サポートする。②八幡市および近隣市町村のインフォーマル資源を把握し、ケアプランへの位置付けが促進するよう見える化を図る。	１回／月 ②通年	管理者 ①北野太朗 ②村上美賀子
3　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	インテーク及びアセスメント、モニタリングでの自宅訪問の際、文書にて利用者へ感染対策の協力を求めるとともに、身体的・精神的・社会的フレイルに陥らないよう適切なケアマネジメントを提供する。	通年	管理者 北野太朗
	利用者への認知症ケアの充実、ADL の向上を目指す	①認知症の基本的知識の確認、本人と家族を支援するための相談援助技術の向上を図る。②身体機能面だけでなく環境調整や役割意識、参加レベルの検討などを個々に行い、実質的な ADL 向上を図る。	①２回／年 ②通年	相談課 ①北野太朗 ②富田江津子
4　人材の質	内部研修の充実	修得した相談援助の知識や技術を法人内にフィードバックできるよう、ZOOM などの活用によりコロナ禍でも実施できる法人内研修を企画・開催する。	２回／年	管理者 北野太朗
	資格取得の推進	年間研修計画を個別に作成し、研修受講などにより取得可能な資格についてはその受講を積極的に推奨し、資格取得できるよう勤務調整などを行う。	通年	管理者 北野太朗

令和３年度　社会福祉法人　秀孝会　有智の郷　包括支援センター　　事業計画

事　業　概　要				
男山東中学校圏域に暮らす高齢者やその家族を支える為、総合相談、権利擁護、介護予防支援、包括的・継続的ケアマネジメント業務を行っている。				
計　画　趣　旨				
地域に生活する高齢者とその家族の一次的かつ総合的な相談窓口としての役割を認識し、適切な相談支援を行うことができるよう、体制を整えていく。相談支援の持つ連携力を強みとし、適宜必要な関係機関と連携することで地域課題の解決に取り組んでいく。				
基本方針	事　業　計　画(Plan)			
	項目	内容（数値・実施時期等）		実施責任者
１　経営の質	機械化（AI,ICT,IOT）を推進	オンライン会議や研修等への積極的な参加を促進していく。	随時	管理者 橋本由佳
	危機管理体制の強化	危機管理について必要と考えられる具体的な事項を挙げ、必要な行動について話し合いを進める。	随時	管理者 橋本由佳
２　地域貢献	関係機関、地域諸団体との連携を図り、地域貢献を進める	有都福祉交流センターにおいて、地域住民の「集いの場」作りを進めていく。	随時	管理者 橋本由佳
３　サービスの質	コロナ禍における利用者ニーズに対応したサービスの提供	外出やサービス利用自粛による利用者の状態悪化を予防し、変化に応じた適切なサービス利用等を促すことができる体制づくりを進めていく。	随時	看護師 櫻井豊子
	利用者への認知症ケアの充実、ADLの向上を目指す	オレンジカフェ事業、認知症初期集中支援事業等の周知、利用の推進等行っていく。	随時	管理者 橋本由佳
４　人材の質	内部研修の充実	配置されている三職種がケースを通じて専門職としての視点を磨き、相互に伝達しあうことで、専門性と総合相談対応力を磨き、相談員としての視野を広げていく。	随時	各自
	専門性の確保	三職種が外部各専門職部会に参加し、専門性の研磨を行うことで、その確保を図る。	１回/月	管理者 橋本由佳